

国際交流IN COVID-19の世界



ワシントンDC ↑
←アメリカヤマボウシ

1912年、国際交流や友好の象徴として、東京の知事がワシントンDCに3000本のさくらを贈りました。お礼として、ワシントンDCは日本に数千のアメリカヤマボウシを贈りました。毎年、二つの国で花が咲き、国がつながっています。例年、ワシントンDCのさくらの下で祭を行い、多くの観光客が花見や日本の文化を楽しんでいます。残念ですが、新型コロナウイルスのため、今年のワシントンDCのさくらまつりは中止となりました。しかし、以下のサイトで過去に参加した方の記録を見ることができます。興味があれば、ご覧ください。

(<https://nationalcherryblossomfestival.org/>)

国際関係の大きな要素の一つは「国際交流」です。日本の「国際交流」を促進するためのプログラムとして「語学指導など行う外国青年招致事業（Japan Exchange and Teaching Programme）」（省略は「JETプログラム」）があります。ほとんどの参加者は教室で英語を教える外国語指導助手（ALT）です。北海道に住んでいるJETプログラムの参加者は300人を超えます。

しかし、生徒に英語を教えることだけが目的ではなく、プログラムの目的のうち、大きく占めているものは「国際交流」です。今月の【赤レンガ通信】は、新型コロナウイルスが広がっている世界の中でも、どうやって国際交流を行なっているか紹介させていただきます。

新型コロナウイルスの影響で、職場や学校ではオンラインで仕事や授業を行なっているため、国際交流もオンラインでできるのでは？ソーシャルディスタンスやウイルス予防対策を守るために、YouTubeで国際交流ビデオや英語を楽しめるビデオを投稿したJETさんが多くいます。その一人として、東川町の国際交流員もYouTubeチャンネルを作ってみました。チャンネルの担当国際交流員のキムさんからの一言です。

国際キッチン：東川町の国際交流

東川町には10か国から来た11人の国際交流員（CIR）がいて、毎年2回、CIRがそれぞれの国の料理を習い、多様な国の料理を食べて体験することができる「国際キッチン」というイベントを開催していました。今年も5月や6月に開催する予定でしたが、このような状況ではできないと考えていました。しかし、町民の皆さんから「家にいる時間が長くなって、毎日のメニューに悩んでいる」という声を聞き、何か役に立つことはないかと思いYouTubeで料理動画を配信するようになりました。

チャンネルの内容はCIRがそれぞれの国の料理を紹介する「国際キッチン」と韓国語講座を受講する方のために毎週発行して家に届ける韓国語テキスト用の料理動画「お家ごはんキム先生」です。CIRに今の状況で町民の皆さんにお家で作って欲しい母国の料理の簡単な企画書（料理の紹介、レシピなど）を出してもらい、それに基づいて撮影・編集・録音をしてアップしています。

YouTubeに数多くある他の料理動画と違う、東川町CIRチャンネルだけの、町民向けというポジションを確立するために1)東川町内で購入できる材料で作れる料理を紹介すること、2)他の国の料理動画にはない日本語字幕をつけること。この2点を念頭に置き、動画を制作しています。

動画を見て「料理作ってみました」と作った料理の写真や感想を送ってくれる方がたくさんいます。そして、今の状況でなかなか会えないCIRに触れることができ嬉しい、語学の勉強にも活用できるという意見を聞き、国際交流に繋がっていると感じています。実際に役に立つ、活用できる動画を作ることがこの企画の目的だったので、このような意見を聞くと本当にやりがいを感じます。視聴回数やチャンネル登録者に拘らず、6月末までは続けてやっていきたいと思えます。

チャンネルご覧ください：<https://www.youtube.com/channel/UCqgsKSym8LJQW69jCoWHuEA>



赤れんが通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー

手作りマスクを縫うマラソン

日本でのマスク不足を補うために、全国AJET役員会が手作りマスクを縫うボランティア活動を行っています。HAJETという北海道のAJET支部も参加しています。HAJET会長から手作りマスクを縫うマラソンについて一言です。

「皆さんがご存じのとおり、パンデミックのため、マスクはどの店でも売り切れています。外出時、健康のために顔を覆うものが必要ですが、それを作ることができない人が多いです。このことから、全国AJET役員会は手作りマスクを縫うボランティア活動を実施しています。全国AJET役員が一番ふさわしい布素材や一番簡単な作り方などの情報を集めて、フェイスブックでシェアしました。例えば、ウイルスの繁殖を防ぐために必要な潤いを効果的に取り入れるために、綿100%からマスクを作った方がいいです。それに加えて、肌を触っている側をわかりやすくするために、マスクの面は異なる色にしなければなりません。

HAJETは全国AJET役員会の一部として参加します。できれば、学校の生徒たち、または先生たちにあげたいので、北海道外国人相談センターに連絡し、手作りマスクを贈呈する団体を探したところ、元2016～2018年にJETの北海道取りまとめアドバイザーを務めていて、現在センターで勤務しているエミリーさんが私たちのために北海道教育委員会に連絡をとってくれました。するとすぐに、マスクを頂けることにとても感謝すると返事がありました。HAJETの目標は道教委に100枚のマスクを贈呈することです。私たちが住む、この大きな島は必ずその目標を達成できると思います。」

手作りマスクを縫うマラソンは6月26日までです。参加したい方はHAJET会長 (president@hajet.org)にご連絡ください。日本語でも英語でもかまいません。



ソーシャルディスタンスや予防対策のため、直接的な人と人の国際交流が難しくなりましたが、うまく対応していくことは可能です。世界中、有名な場所や博物館のオンラインツアーをはじめとし、国際交流と関係のある仕事を行っている人々が新しく斬新なアイデアを考えています。ソーシャルディスタンスを守って家にいる時も、新しいことを習い、遠い場所も探検してみましょう。

赤れんが通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー



北海道JETスポットライト



北

海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約300人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えていきます！



Meet Jacob!



私はイグレスィアス・ジェイコブです。23歳です。生まれ育ちはアメリカのテキサス州のサンアントニオ市です。テキサスA&M大学で国際商業と日本語を専攻しました。大学生の時、世界中で一番大きい軍隊マーチングバンドの一員でした。来日してから北海道の稚内で小学校・中学校で外国語指導助手(ALT)として働いています。今の趣味はスケートボードをすること、ギターを弾くこと、日本語を勉強することです。

なぜ北海道(日本)へ来たのですか。

子供の時からアニメやテレビゲームを含めて日本のことに自然な興味を持っていました。特に、「ファイナル・ファンタジー」というシリーズが私の子供の頃にとっても影響がありました。時間が経つにつれ、自分の大学でコースが提供されていることに気づくまで、日本語を学びたいという気持ちを完全に忘れていました。日本語コースが終了したとたん、専攻を生物学から国際科学に変更しました。大学2年生の時、東京で10週間の留学に参加しました。留学から帰国して、日本に戻りたいという気持ちがありましたので、卒業後、JETプログラムに参加しようと思いました。

赤レンガ通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー

〒060-8688北海道札幌市中央区北3条西6丁目 011-231-4111 FAX: 011-231-4303

これまでの北海道の経験はどうか。

来日してから、体験はとても良かったと思います！同僚は全員親切な人で、日本に来る理由の一つである、新しい体験がたくさんあります。生徒たちに教えることや交流することをとても楽しんでます。もちろん、いいことばかりではありません。私は外交的な人なので、人と会ったり、付き合ったりすることが好きですが、1人で時間を過ごすのはちょっと苦手です。特に冬は辛かったです。私は車も運転免許もありませんので、家にこもってしまった時間が多くありました。それを解消するために、ギターを弾き始めたり、今持っているスキルを磨いたりしました。

これまで一番印象に残っていることは何ですか。

一番印象が残っていることは稚内に到着してすぐに開催していた祭です。稚内市教育委員会の一員として、参加し、踊りました。それぞれの歌の間にミニビールを渡してくれました。祭りが終わった後、皆と一緒に市役所に行って、ジンギスカン飲み会をやりました！

住んでいる地域の好きなのところは何か。

宗谷管内の一番好きなのところは「体験できるきれいな景色」です。特に、西の海岸の日没はとてもきれいなので、たまに、写真を撮るために、午後になると自転車でそこに向かいます。夏の天気は暑すぎないので、毎日過ごしやすく、とても好きです。それに稚内市は大きな港町で、海の空気を吸いながら埠頭をよく散歩します。



赤れんが通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー